

専門部会（東北ブロック）

【重症児施設部会】

齋藤秋雄(福島整肢療護園)

本年10月10日(水)に「あしかがの森足利病院」の施設見学に行ってきました。青森、岩手、宮城、山形、福島県から総勢40数名が参加しました、福島県からは福島整肢療護園(親4名、職員5名)、いわき病院(親1名)が参加しました。

足利病院は、平成13年に国から経営移譲を受け、全国重症心身障害児(者)を守る会が運営している医療と福祉の機能を兼ね備えた施設です。重症児者の病棟は4棟164床(内短期入所4床)で、入所者の平均年齢は38歳、40~50代が中心となっており、最高齢は79歳でした。

守る会が経営するだけあり、重症児者の生活環境を守るため色々な工夫が成されていました。棟には花の名前が付いており、玄関には棟の花の絵が描かれ、廊下にはそれぞれのコンセプトに応じた絵が描かれていました。

4人部屋は基準面積より大きく、廊下も幅広に取ってあり、間接照明となって落ち着いた雰囲気を感じさせていました。動ける人たちには部屋を工夫して、移動しやすいように設計されています。

※車椅子や衣類は部屋には置かず別室で集中管理しており、着替えの際は助手の人が該当者の衣類を取りそろえ準備するそうです。デイルームの天井には鉄パイプが設置され、ブランコで遊べるよう工夫されています。

親子交流室が2部屋あり、休憩や宿泊ができます。

色々な施設を見学することにより、自分の子供が入所している施設のよい点又は改善すべき点が見えてきます。機会があればできるだけ参加して、子供のQOLの改善に役立てましょう。



編集後記：3年前の5月、東北ブロック国立施設部会総会が仙台で開催されたとき、開会にあたり村上部会長から発せられた言葉は、「この総会で私の後の会長を引き受けていただくことで了解を得ていた岩手病院の千葉敬一さんが交通事故に遭われ本日葬儀告別式です」と沈痛な面持ちで話されました。

総会に出席するまでその事実を知るすべもなく、突然の訃報に驚きを覚えるとともに、事前に連絡をいただければ、総会へ車で出席し終了後に焼香に行けたのにとの思いがありました。

全国大会やブロック大会などで会えば一言ふたこと話をする程度でしたが、年齢も近いこともあり親しみを感じていました。全国大会が沖縄で開催されたとき、千葉さんは奥さんを伴って参加されていました。いずれ自分もそうしたいなと思わせてくれたのもお二人の姿でした。

機会があれば、一度お線香をあげに行きたいなとの思いがあり、施設見学会が青森病院で開催されたときに車で行き、帰り道で千葉さんの家により焼香をさせていただきました。新盆も終え、秋の彼岸が過ぎていた10月に、いまだに心の整理がつかなく祭壇を片付けることが出来ないと憔悴しきったお父さんにかかる言葉も見つからず失礼をさせていただきました。

今年の施設見学会は岩手病院でしたので、遠くまで車を運転していくのは今年くらいが最後かもしれないとの思いもあり、また立ち寄り焼香をさせていただきました。

出迎えてくれたお父さんと話をさせていただきましたが、事故に遭われた当日のことは鮮明に覚えており状況についてもお話をいただきました。「交通事故は誰も起こしたくて起こすのではないから加害者を恨んでも仕方ない、でも、悔やんでも悔やみきれない」と話されていました。

救いであったのは、お父さんが前回訪ねた時よりは、だいぶ明るくなっていたことでした。

ご冥福を祈ります。(T)

絆

～きずな～

2018年11月10日 第12号

発行責任者：会長 齋藤秋雄

福島県重症心身障害児(者)を守る会

連絡先：いわき市石森2-12-1 Tel:0246-22-8854

あしかがの森

東北ブロック重症児施設部会で、社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会で運営している「あしかがの森足利病院」を見学研修する機会に参加させていただいた時のことです。

病院との意見交換の時に、やはり縁あって自費で参加していたブロック母親部会長の中川原さんから「守る会で運営している施設ですから、入所者の家族は当然守る会の会員なんですよね。入所するには守る会の会員になるのが条件とかにはないのですか」との質問が出されましたが、運営主体が守る会であっても、保護者家族の加入率は約8割とのこと。

福祉制度の後退を招かないためにも一人でも多くの会員の加入を実践していかなければとの思いを強くしました。【T】

HELPという言葉大切に！

福島県重症心身障害児(者)を守る会
会長 齋藤秋雄



標記の言葉は、昭和49年の私の結婚式の祝辞で述べられた言葉です。法学部出身の私は、「夫婦は相互扶助の義務を負う」とか言うのかなと想像していましたが、次の英語の頭文字から取ったものです。

Health(健康) Equal(平等) Love(愛) Peace(平和)

H(健康)健康であることが一番ですが、特に結婚当初は昼の仕事と夜のお勤め(時々、朝も)があるので、奥様の愛情のある手料理で健康管理するようにと言われました。お陰様で、今でも元気で過ごしています。

E(平等)福沢諭吉翁の「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」の言葉は有名ですが、最近、相撲界で「女の人は土俵からおりてください」との事件が起きました。女性は不浄で神聖な土俵には上がってはならないとの考えです。しかし、一休禅師の言葉に「女をば法の御蔵と言うぞげに。釈迦も達磨もヒョイヒョイと産む。」と有ります。どんな偉い人でも女の人から生まれた訳ですから、尊敬されこそすれ不浄と言われるのはそれこそ不条理です。

L(愛)前にも書きましたが、「恋は、心が下にあるので下心有りです。愛は心が真ん中にあるので真心となります。」愛語、よく回天の力あるを学すべし。

P(平和)聖徳太子は「和を以て貴しとなし」と、憲法17条の筆頭にあげました。日本料理には「和え物」と言う物があり、二つ以上の異質なものを「和え」ながら新たな旨味を生み出していきます。夫婦と似ていますよね。

HELPという言葉は本来「助ける」と「耐える(can とともにもちいるとき)」という意味ですが、それぞれに別けて考えると違った意味にもなることを考えて、本来の意味と同時に大切にしてください。

合掌

10 連休

新しい元号に変わる来年、祝日法の関係もあり5月のゴールデンウィークが10連休となるのがテレビで放映されています。

岩手病院施設見学会の翌日に開催された意見交換会で「休日が続く保育士さんが病棟に顔を出さないのが子どもたちが寂しい思いをする。10連休ともなると子どもたちが可哀そうだ、そんな思いをさせなくてもいいように、守る会として国立病院機構に何らかのアプローチをお願いしたい」と振られたブロック長から発せられた言葉は、「この場合は、そういう意見もあつたと言うことで承っておきましょう」。

守る会の歴史は、子どもたちのことを思う親が意見を出し合い行く末を案じて行動を起こしたことが現在の療育環境を作ったと語られているのは誰でしたか…。

来年の5月まであと半年、意見を受け承っただけでは問題の解決にはつながらないのではないですか。

この発言を受け、参加者の一人から発せられた言葉は「その時に子どもがさみしい思いをしないように親がみんな面会に行きましょう」

なぜ、こういう言葉は出ないのでしょうか…。(T)

富ちゃんの涙

いわき病院翠ヶ丘親の会 鈴木敦子

私が彼の存在を知ったのは、主人と初めて出かけた時の事でした。主人(富康)の口から「俺には、身体障害者の弟がいる。名前は平馬。」

主人はその時、弟の平馬さんの障害の状態を詳しく話しました。食事は自力ではできず、排泄は紙おむつ。病院から家に帰ってきた時は主人や義父が風呂に入れてあげていることなど、生活のすべてで介助は必要でした。

私は、「どうしてこの人はこんな事を話すのだろう。」と思うとともに、「一緒に私に世話をしてもらいたいのかなあ」と一瞬、思いました。さらに、「平馬は何も話せないけど、病院に帰る時は母親の背中になかなかおぶさろうとはせず大変なんだ。」と、涙ながらに話してくれたことを思い出します。

それ以来、私は障害を持つ弟を持つ夫の思いをできるだけ受け止めるよう努力し、家族の気持ちを大切にしながら日々の生活を過ごしてきました。

現在は、三カ月に一度程度の季節ごとの病院の行事には、姑と共に参加しています。

保育士をしていた私ですが、初めの頃は平馬さんの介助も慣れない上、一緒に生活していないため、帰省した時は家族とは別に介護食を作ることにさえ気づきませんでした。障害者の立場になって考えることの大切さを日々の生活から教えられました。

病院では、年に一度院外に出かけるバスハイクの行事があります。いつもは姑と一緒にいるのですが、その日は都合がつかなくなり私が参加することになりました。平馬さんに付き添いながら、一緒にいた保護者の方や看護師さんたちと話が弾んだ合間に、席を離れようとした時の事でした。平馬さんが「行かないで!」と言うかのように、突然あたしの体を「ギュッ」とつかみ離そうとしなくなりました。私は突然のことに驚きましたが、平馬さんの手を撫でながら「大丈夫行かないから。」と言いつつ、「面倒見てあげなければならぬ人なんだなあ。」と改めて思ったことがありました。

平馬さんは、五月の連休、お盆、お正月と病院から帰省して来ます。両親も高齢になってきているので入浴はもちろん、入浴後の着替えから排泄の介助と私が手伝うことが増えてきています。私の子どもは四人いますが、その子たちも嫌がらず入浴の手伝いや何やら様々なことに手を貸してくれます。これまで私が姑と行っていた病院の行事も、夫の兄弟として当たり前のことだと思い、私の子どもにも教えていきたいと思っています。そのためには、障害をもって生まれた平馬さんを様々な場面でどのように受け入れて寄り添ってきたか、私を感じたこと、考えてきた事を話すことが大切なことだと思っています。

主人が初めて話してくれた時の主人の流した涙。平馬さんを大事に思う気持ちに伝えてあげられるよう努力したいと思っています。

「平成30年9月1日(土)~2日(日)に山形県上山市で開催された東北ブロック大会での意見発表より」



茶話会

理事 安斉律子 母親部会長(いわき病院)

5月20日(日)県支部総会終了後、東北ブロック中川原母親部会長の講演を受けた後、県支部茶話会を福島病院家族面会室において実施しました。

参加者からは

- 国立入所の親たちは安心して満たされて子どもの成長を見ている。
- 在宅はすべて子どもにかかわるため大変だが、国立入所の親に刺激を受けお子さんをグループホームに入所させた。
- 身上監護支援員(NPO)として、青森病院で子どもたちとふれあい衣類など親に変わってみている。
- 国立病院は療養介護になっているのでぼんやりとしたやわらかな光や静かな音楽を流して心地よい刺激を与えるスヌーズレンや機能訓練士が病棟を訪れている。保育士さんもいる。
- 在宅では有料でフットマッサージや音楽療法を受けている。
- ボランティアを頼んで子どもに接したり散歩をしてもらうなど。
- 義務教育が終わってしまい、高校も修了し先生方と接する機会がなくなり子どもが寂しそうで残念。など、の意見が出されました。

在宅部会

東北ブロック在宅部会長 青森県支部 中村真理子

【視察について】

- 「有限会社 希望」(きらら) 福島県会津若松市門田町大字日吉字笹藪田 19 番地
- 5月にスタートした24H日中支援サービス型のグループホームで取締役の、薄 久子(うすきひさこ)氏が対応してくれた。設立の経緯としては相談支援をしている中で重度訪問介護ではカバーできない、欲しい支援が十分に受けられない人がいてグループホームの必要性を感じたからだという。
 - 入所(予定)者は、2階に精神・知的の女性5名、1階に重心の方6名(経管1名、カニューレ1名)で最初から対象者が絞られていた。ショートステイ枠4名で児童、難病、身体など受け入れている。
 - 「終のすみかで自分らしく暮らす」をモットーに、希望をできるだけ叶える、一人ひとりに合わせるを基に室内の設計から毎月の予定表に至るまで細部に渡り納得のいくまで練っている様子が見えた。
 - 時間も忘れてしまうほど有意義な視察となった。

【全体の感想】

- 初めての泊と施設視察と福島での開催ということだったが、福島の方が予めセッティングしてくれたのでスムーズに日程をこなすことができた。
- 視察は同じような施設の長になったという藤村さん(岩手県支部)の具体的な質問でリアルな内情にまで踏み込んだ話が聞けて有意義だった。
- 泊りがけの会議は時間が取れたためリラックスしたためか聞きたいことをとことん聞いた感があって多くの情報を共有できた。
- 解散後、鶴ヶ城見学!



「在宅部会報告より」